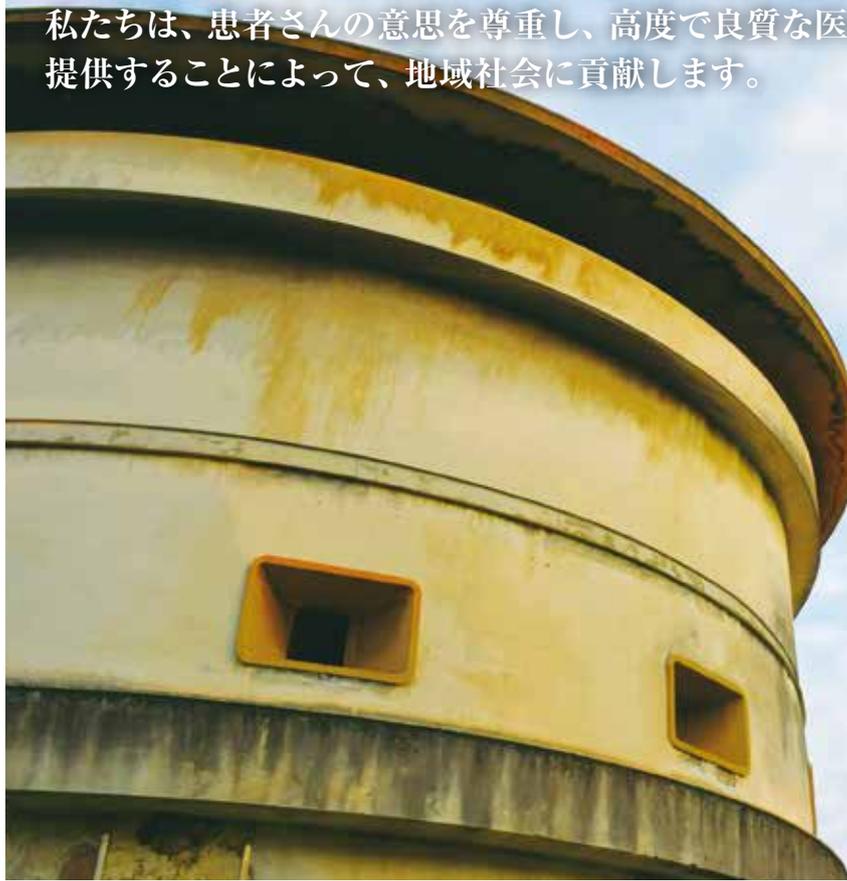


## ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



[nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp](http://nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp)

### Message メッセージ

#### 糖尿病・内分泌内科診療の現況

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

### Information お知らせ

#### ■にしびようTopics

スキンケア外来ができました!

#### ■特集

こんにちは! 地域医療連携センターです

#### ■院長エッセイ「四季雑感」

先んずれば病を制す

#### ■医療技術NOW!

感染対策室

#### ■絵の中の風景を旅するvol.14

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



# 糖尿病・内分泌内科診療の現況

糖尿病・内分泌内科部長：沖田考平



**地** 域の医療機関の皆様と協力し糖尿病の総合的な治療を行う目的で地域糖尿病センターを開設して4年が経とうとしています。当センターでは、外来診療や、教育入院を通じて、かかりつけ医の先生方と協調しながら診療を行っております。

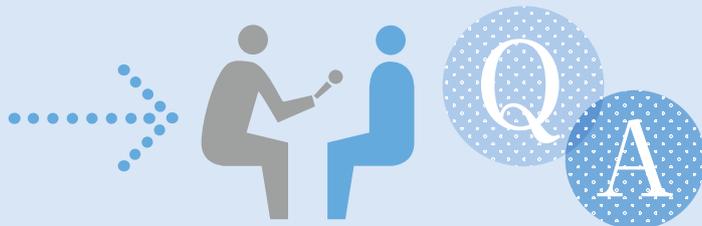
外来診療におきましては、毎日専門の医師が外来を担当しておりますので、地域の医療機関皆様の依頼に対して迅速に対応することが可能です。外来でのインスリン導入、栄養指導、糖尿病教育入院の依頼も随時承っております。

糖尿病教育入院は、食事療法・運動療法・薬物治療により血糖のコントロールを行うと共に、個別指導や糖尿病教室を通して糖尿病の悪化の原因となる生活習慣を見直し、糖尿病治療に必要な知識や方法を勉強していただいております。そのために、医師・看護師・管理栄養士・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士など様々な部署が協力してチーム医療を行っております。また、腎臓・神経・網膜・動脈硬化性病変など様々な合併症のチェックも行い、合併症が認められた場合には、眼科・腎臓内科・循環器内科・脳神経外科・皮膚科・整形外科などと協力して治療を行っております。



**目** 本内分泌学会認定教育施設の認定を取得し、下垂体疾患・副腎疾患・副甲状腺疾患などの内分泌疾患についても診療を行っております。下垂体や副腎などの各種負荷試験、MRIやシンチグラフィ等の画像検査、下垂体静脈洞や副腎静脈のサンプリングなどを行い診断するとともに治療にあたっています。

# 糖尿病について質問! INTERVIEW



**Q** 糖尿病と診断されましたが、特に症状がありません。放置して大丈夫でしょうか？

**A** 糖尿病は自覚症状が少ないため、放置しておくやがて全身に様々な合併症を起こしてしまいます。血糖値が高いほど、糖尿病合併症を起こしやすいと言われていますが、早期より治療を受けられると糖尿病合併症の発症を低下させることは出来ます。

**Q** 薬を使い始めると糖尿病は重症なのでしょう？

**A** 糖尿病は他の病気と違って、一口に重症とか軽症とかいうことはできません。一般的には合併症を持つ患者さんほど重症度が高いと考えられます。飲み薬を服用したり、インスリン注射をしていても合併症がなければ、重症と考える必要はありません。糖尿病は自己管理が大切な病気です。日常生活の中で自己管理していくことは大変なことです。何か不安なことや困ったことがありましたら、気軽に糖尿病内科医師・看護師に声をかけて下さい。一緒に考えていきましょう。

(糖尿病看護認定看護師：西山 則子)

## 最新情報

## CGMについて

良好な血糖コントロールを得て、合併症を予防するには、HbA1cの値のみならず、1日の血糖の変動において高血糖や(無自覚)低血糖がないことが重要です。CGM(continuous glucose monitoring)は皮下にセンサーを挿入することで、糖濃度を連続測定します。最大6日間連続で測定が可能で、防水ですので装着したまま入浴頂けます。

この検査は外来の患者様でも可能であり血糖変動が詳細に分かるため、治療方針の決定に役立てることができます。

(糖尿病・内分泌内科医長：芳川 篤志)



## スタッフ紹介



- 沖田 考平 内科部長(前列左から3番目)
- 芳川 篤志 内科医長(前列左から2番目)
- 檀 倫子 内科医長(後列左から3番目)
- 常田 和宏 内科フェロー(前列左から1番目)
- 飯尾まゆ奈 専攻医(後列左から4番目)
- 山本 研人 専攻医(後列左から2番目)
- 伊藤 直彦 専攻医(後列左から1番目)
- 常田 芙佐 専攻医(後列左から5番目)
- 西山 則子 糖尿病看護認定看護師(前列左から4番目)
- 天野 和美 9階病棟看護師長(前列右から4番目)
- 森本安友未 管理栄養士(前列右から3番目)
- 磯沖 文誉 糖尿病療法士(前列右から2番目)
- 宮地 操 糖尿病療法士(後列右から1番目)
- 末森千加子 薬剤師(後列右から2番目)
- 上り口 誠 薬剤師(後列右から6番目)
- 矢野 曜子 検査技師(前列右から1番目)
- 金子佐容子 検査技師(後列右から5番目)
- 岡政 尚子 検査技師(後列右から4番目)
- 山村 絵理 検査技師(後列右から3番目)

## 「スキンケア外来ができました」

2016年1月より、スキンケア外来としてお部屋がリニューアルされました。

今までも、人工肛門、人工膀胱（ストーマ）を造設された方や褥瘡や術後創のケアが必要な方に対して、退院されてからも継続したケアを行ってきました。この度、環境面が今までよりもさらに整備されたお部屋になりました。ストーマケア、ストーマ装具、褥瘡ケア、褥瘡予防、失禁ケアについて、ご相談がありましたら当院主治医にお声掛けください。当院がかかりつけでない方は、まずは地域医療連携センターにお問い合わせください。

（皮膚・排泄ケア認定看護師：市位 理恵）



こんにちは!

## 地域医療連携センターです!

平素より当院の地域医療連携にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

当地域医療連携センターには現在、3名の退院調整看護師と6名の医療ソーシャルワーカー、10名の事務員が在籍し、病病・病診、介護部門との連携強化に取り組んでいます。

昨年、人員補充と業務拡大に伴い、部署の改修工事を実施しました。正面入り口から入ってすぐ左手に分かりやすいカウンターを設置しましたので、ご来院の際にはお気軽にお声かけ下さい。

私たちは、患者さんが安心して治療を受けながら出来る限り自分らしい生活を実現できるよう、患者さん・ご家族にとってよりよい支援を提供しています。最近では、新たな取り組みとして、退院時の在宅訪問を開始しました。従来、退院時のカンファレンスはご家族や在宅連携機関の皆様にご来院へ足を運んでいただき実施していましたが、実際に患者さんが過ごされる家の中でカンファレンスを行うことで、より具体的なイメージを病院スタッフ・在宅スタッフ共に行いながら在宅復帰を実現できると感じています。現在は、まだ一部のケースのみ実施している状況ですが、効果を検証しながら今後件数を増やしていく方向です。その他にも、患者さん・ご家族の生の声を私たちの支援へ活かすために、「退院支援に対する満足度調査」の実施を企画し、現在準備を進めています。今後とも、よりよい地域医療連携のためにご協力をよろしくお願い致します。

（地域医療連携センター ソーシャルワーカー：畑 裕美）



# 四季雑感



**新**

緑が目にしみます。緑の濃淡、彩度の微妙な違い、それらの配合の妙など見飽きることはありません。朝の陽光に映えた山並みを病棟の窓越しに眺めると、この自然に恵まれた環境を有難く感じます。また雨が降った翌日には、植物の若い芽が驚くほどに伸びていることに気が付きます。

四季の移り変わりと同じように、人の身体も変化していくのは誰もが知っていることです。子供の成長もそうですし、成人の老化もその一つでしょう。

老化と切り離せないのが、いわゆる生活習慣病ですが、糖尿病はまさにその代表格です。糖質と脂肪の過剰摂取や運動不足が、糖尿病を引き起こすことが明らかになり、それを予防するために、食生活の改善や適度の運動などが奨励されています。

これらは糖尿病など生活習慣病を未然に防ぐために行われるのですが、医学におけるこのよう領域は、一般に予

防医学と呼ばれています。

たとえば、普段の健診や人間ドックなどで、血糖が高いなど、異常値が見つかったら、まずは食事や運動などを適正に行うために生活指導を受けることになります。一方、明らかに糖尿病を発症している場合には、それぞれ患者さんの状態に応じた治療が必要になるのは言うまでもありません。

最近では、新しい経口の糖尿病治療薬が次々に使用されるようになり、低血糖のような副作用が起こりにくく、安定して治療を受けることができるようになっています。

しかし糖尿病など生活習慣病の治療には、根治的なものはほとんどなく、治療していても残念ながら病状は徐々に進行することが少なくないようです。

ところが、近年、この治療開始の時期を早めて、生活習慣病の発病あるいは進行を未然に防ごうという考えが提唱されるようになり、「先制医療」と呼ばれています。まさに「先んずれば病を制す」というわけですが、今後の予防医学と先制医療の成果に期待したいものです。



兵庫県立西宮病院 院長  
河田 純男



## 医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

2016年1月感染対策室が開設されました。感染対策室の役割は、患者さん・ご家族、職員（委託業者も含む）、学生等当院に関わるすべての人を医療関連感染から守ることです。感染対策では専従看護師として、院内感染対策チーム（ICT）と連携し、全職員への感染対策教育、現場の感染症患者の対応の相談や感染対策の徹底、院内への感染情報の伝達等を行っています。医療関連感染対策は、今日の高度化・専門化した病院医療における医療安全対策の大きな柱のひとつです。ICTの一員として、感染管理加算1病院にふさわしいワンランク上の感染対策が提供できるよう努めてまいります。

（感染対策室専従看護師 山本 美雪）



# 絵の中の風景を / 旅する vol.14

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200点以上にのぼる絵画が飾られています。"にしびょう美術館"の貴重な"館贈品"は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館3階  
エレベーターホール



冬の寒い日中、山あいの町で行われている和紙の天日干し作業。年老いた職人がせっせと作業に励んでいる。和紙は洋紙と比べて繊維が長く、また、「流し漉き」といった日本独自の紙漉き技法を用いて、薄くとも強靱で寿命が長いと言われ、便せん・封筒から襖やインテリアとしての照明器具、紙幣の素材や文化財の修復と幅広く使われている。和紙の産地は全国に点在し、県内にも杉原紙(多可町)、ちくさ紙(宍粟市)、津名紙(淡路市)、間似合紙(西宮市)がある。しかし、全国的に見て生産者の減少等により、供給の減少が危惧されている。今後も、日本古来の伝統的な製法による和紙をいつまでも残していつてほしいと思う。

(総務部:足立 彰久)

## 編集後記

編集室



風薫る心地よい季節となりました。新人職員の方々も少しずつ部署の環境に慣れ先輩に支えられながらメンバーの一員として頑張っています。

病院理念の一つである患者さんを中心としたチーム医療を推進するため、それぞれの分野の情報共有、地域医療連携センターとの協働を図り、患者さんに寄り添った医療、看護を提供できるよう努めていきたいと思っております。

(10階病棟看護師長:大原 晴子)

H A M A K A Z E

2016  
Vol. 14

## 兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号  
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594  
地域医療連携センター FAX:0798-34-4436  
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

[nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp](http://nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp)

2016.5 発行